

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒154-8533
東京都世田谷区太子堂 1-7-57
 E-mail : info@jhs.swu.ac.jp
 Website : http://jhs.swu.ac.jp
 児童生徒数：男子 0 名 女子 1355 名 合計 1355 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

①環境教育

- 各教科カリキュラムにおいて環境教育について積極的に取り入れた。またそれが、教科横断的に展開するよう心掛けた。
- 生徒会(保健部委員会)を中心に、徹底的なゴミの分別と環境保全に努めた。
- 第4回ESDアシストプロジェクトで購入した落ち葉や生ゴミを堆肥に変えるためのコンポスト「ロータリーコンポスター」を活用し、堆肥を花壇に使用することができた。生徒の3Rに対しての意識向上にもつながった。
- 12月に実施した海外研修旅行において、訪問各国(ベトナム・マレーシア・オーストラリア)の環境問題について考え、ベトナムではマングローブ林再生のために、植樹を行った。
- 各種ボランティア清掃(校内・近隣・近隣公園等)に積極的に参加した。
- 校内で、「エコクッキングコンテスト」を開き、色々なアイデアのレシピの応募があった。

②国際理解教育

- 中学生徒全員に対する長期英語教育プロジェクト(本校ではThe Boston Missionと呼んでいる)を実行した。特に中学2年生全員が経験する現地研修では、現地生徒との交流を通し異文化理解に努めた。
- 高校1年生を対象に行った選択制修学旅行のプログラムにおいては、各国(ベトナム・マレーシア・オーストラリア)の文化を体験し、その理解を深めた。
- 高校生対象の(任意参加)英国短期留学プログラムにおいては、ホームステイを中心に、異文化理解を深め、国際的な視野を広げる機会となった。
- 本学園に併設されているブリティッシュスクールイン東京の生徒との交流機会が増加した。お互いの文化を知る機会として、お互いの国のアクティビティーに参加するInter National Day、英語劇の共同開催等日常的に海外文化を感じる環境が整った。
- イギリスからのギャップイヤーを活用したアシスタントティーチャーを2名受け入れ、日常的に生徒と接触し、国際理解を深めた。
- ユニクロの“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加し、事前学習(ユニクロ社員による出張授業)を通して、難民キャンプの生活などの国際情勢について学んだ。

③他者理解教育

- 中1～高2まで、学年ごとに5日間の研修学寮を実施。ボランティア活動や集団生活を通して、他者を理解する力、コミュニケーション能力の向上に向け、研鑽した。
- 様々な授業において、グループワークやペアワーク、ディベートを取り入れ、コミュニケーション能力の向上に努めた。
- 高1～2の行学の授業で、サービスラーニングを行い、様々なボランティア体験、問題解決への学びを行い、プレゼンテーション能力も高めた。
- 「東日本大震災を心と記憶にとどめるユネスコ・ボランティア交流ツアー」に高1の生徒2名が参加し、全校生徒に掲示や放送で報告した。
- ユニクロの“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加し、全校で約1400枚集めることができ、難民キャンプに送り、現地の子どもたちからのお礼のメッセージを受け取ることができ、役に立つ喜びとつながりを実感することができた。
- 次の機関等との連携を通し、ボランティア活動や募金活動を行った。
 - ◇重症心身障害者施設「あけぼの学園」
 - ◇「ホスピア三軒茶屋」
 - ◇一般財団法人「民際センター」
 - ◇「日本肢体不自由児協会」
 - ◇「キャップの貯金箱推進ネットワーク」
- 他者理解教育の一環として、次の方々に講演していただいた。
 - ◇エソダ・バスネットさん(ネパール)

④生徒への啓蒙

- 個人研究「私の研究」では、研究テーマを全生徒がESDの内容に合致したものに設定。年間を通しての研究においても、常に各自が課題発見、それを文献調査や実地調査等で解決していくという学習過程が確立している。
- ESDオフィシャルサポーターでもある宇宙飛行士山崎直子氏に、全校生徒および保護者(希望者)に向けて、「宇宙、人、夢つなぐ」と題して講演をしていただいた。
- 校内ESD大賞を設定。10作品が参加。
 - 総務部委員会の「ユニクロ“服のチカラ”プロジェクト」
 - 厚生部委員会の「ラオス語訳をつけて絵本を送る」の活動が大賞に選ばれた。

⑤生徒個人の活動

- 10月9日 全国高校生ESDシンポジウム東京大会にて、ESD活動を発表

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()